

— 1984年、国際雪氷学会シンポジウムの 札幌開催について —

若 浜 五 郎

かねてより国際雪氷学会 (IGS: International Glaciological Society) から国際シンポジウムを日本で開くようにとの要請がありましたので、IGSの日本代表幹事としてその対応につき関係の方々と種々相談して参りました。その結果、①日本は雪氷学の先進国であるのに国際シンポジウムを引受けたことがないこと、②日本のIGS会員は70名を越え、シンポジウムを引受けるに充分な力と責任を有すること、③研究の国際化が強くいわれる今日、国際シンポジウムを日本で開くことは、特に若手研究者にとって有形無形の効果が期待できること、④日本の雪氷学全般にとっても良い刺激となり、将来の研究をより発展させるための良い契機となること、などの理由でシンポジウムを引受ける方がよいと判断し、国内のIGS会員全員にお諮りしたところ大方の賛同が得られたこと、また日本雪氷学会に共催方お願いしたところ承諾が得られたので開催を引受けることに踏み切った次第です。日時その他を下に記します。シンポジウムのテーマは、国内のIGS会員の御意見とIGS本部評議員会の意向を調整しつつ決めたものがあります。

— 記 —

日 時: 1984年(昭59年)9月2~7日

(9月1日に東京で一般講演とレセプションが予定されている)

場 所: 札幌市(会場未定)

題 目: Symposium on Snow and Ice Processes at the Earth's Surface

(地表面における雪氷の諸過程に関するシンポジウム)

内 容: (1)雪氷面におけるエネルギー交換

(2)雪の変態

(3)着氷雪

(4)空中を流れ飛ぶ雪の挙動(ふぶき、なだれ、流動化)

(5)氷山の漂流とその影響

主 催: 国際雪氷学会

共 催: 日本雪氷学会(他にも2~3共催ないし後援に加わっていただく予定)

今後、組織委員会、実行委員会等を構成して実務を進めて行かなければなりません、各位の御協力を宜しくお願い致します。

なお、IGSを簡単に紹介します。IGSは1936年(昭11年)設立された英国雪氷学会が第二次大戦後国際化し、1971年(昭46年)現在の国際雪氷学会に発展したものです。本部は英国ケンブリッジ大学のスコット極地研究所におかれ、すべての国の雪氷の科学的技術的諸問題の研究を奨励促進し、雪氷の情報交換につとめると共に学会誌(Journal of Glaciology)の発行やシンポジウムの開催等を行っております。この機会をお借りして入会をお勧めします。入会御希望の方は北大低温研・若浜に御一報下さい。(TEL: 011-711-2111・(内)5470)。(文責)若 浜 五 郎